

木田市長の

どろんどろんと
コミュニケーション



〜真珠のように輝くまちづくりのために〜

吉永小百合さん、神島へ帰る

Vol.90

吉永小百合さんのインパクトの大きさに驚きました。

普段4000人程の神島の人口が2,000人近くにふくれ上がりました。島民の中には、神島が少し沈んだと表現する人もいたほどでした。マスコミの数も19社、50人というところで、興味深いことには自然に人は集まるものです。

以前から「吉永小百合さんが神島へもう一度来てくれたらなあ」という言葉をあちらこちらで聞いていました。そんな声に影響され、昨年の5月に知事のすこいやんかトークが神島で開かれた際、始まる前に知事に言いました。

「吉永小百合さんが、監制的のりリニューアルや潮騒公園の完成に合わせて来ていただけ

るといいのですがねえ」。その後、島民の皆さんを前にして、突然知事は「来年、吉永さんを神島へ呼ぶ交渉をします」と発言されました。知事の決断力と歯切れの良さには感服でした。以来一年間、県の東京事務所の人達や、三重県出身の東京在住の人達が本

当に頑張ってくれました。吉永さんは行政から呼ばれたくらいでは、ほとんど招待に応募することはないそうです。関係者の方々の大変な努力と、吉永さんに伝わった神島島民の熱き想いが、今回の来訪に結びついたと思います。

あまりの人氣で、ファンが彼女に殺到しますので、ケガがあつてはいけないということで、ガードも大変厳しいも

のがありました。したがって、サインが欲しい人、握手をしたい人もなかなか思うにまかせずという状態であったと思います。私は申し訳ありませんが、近鉄で鳥羽へ到着された時と帰られる時の二回、握手をしました。多くのサユリスト達から「感触はどうだった？」とوراやましがられました。

吉永小百合さんの印象は、名前がとてモマツチした方だなあというものでした。若くて、きれいな年を感じさせないということを感じました。あいつの中で、「私はあまり過去のことを振り返るのは好きではない。前に向かって進んでゆかなければ」と言われていました。その言葉を聞いて、彼女にはあまり過去はない、だから若さを保っているのかなと思えたほどでした。多くの人々に感動と満足を与え、「また来ます」と言ってくれた吉永小百合さん。さわやかな印象が残りました。



Vol.126

ことばの力

成功を目指すアスリートが、自分を高める方法の一つとして、「自分で自分を洗脳する」といった方法があります。

例えば、大切な試合の直前に「私は絶対に成功する」と言葉を発することで、自らを高め、結果、成功につながる事ができたといったようなことです。

また、日本には古くから「言霊」といって、口から声に出した言葉が現実の事象に対して何らかの影響を与える、という言い伝えがあります。

言葉にそのような力があるのかどうかは、科学的な根拠もなく分かりませんが、だれにでも一つくらいは、「あの時あの人に言われた言葉が忘

れられない」といったような経験はないでしょうか？
自分が何気なく発した言葉でも、受け取る側には時として安らぎにもなり、また、使う言葉によっては、その人の心を深く傷つけてしまう凶器にもなり得る力があります。

みなさんは、知らず知らずのうちにだれかを傷つける言葉を発してしまっていないか？
常に受け取る側の気持ちを考えながら会話をすることは難しいですが、願わくは、自分の口から発する言葉は、人を傷つけるものではなく、安らぎ、癒し、力づけるものでありたいものです。

「自分の口から出てくる言葉は常に人を安らげるものでありたい。人を力づけるものでありたい。人を励ますものでありたい。人を明るい気持ちにさせるものでありたい。自分の口から出てくる言葉は常に贈り物でありたい。人を勇気づける贈り物でありたい。(良寛和尚)」